

**注文書**

以下の書籍を注文します。

◆ 続・田中卓著作集 全6巻 () セット

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 伊勢・三輪・賀茂・出雲の神々 | 8,800円+税 () 冊 |
| ② 古代の住吉大社 | () 冊 |
| ③ 考古学・上代史料の再検討 | () 冊 |
| ④ 日本建国史と邪馬台国 | () 冊 |
| ⑤ 平泉史学の神髓 | () 冊 |
| ⑥ 出陣学徒の終戦史録 | () 冊 |

◆ 田中卓著作集 全12冊 95,918円+税 () セット

- | | |
|---------------|-----------------|
| ① 神話と史実 | 7,000円+税 () 冊 |
| *② 日本国の成立と諸氏族 | 9,000円+税 () 冊 |
| ③ 邪馬台国と稲荷山刀銘 | 6,000円+税 () 冊 |
| *④ 伊勢神宮の創祀と発展 | 8,500円+税 () 冊 |
| *⑤ 壬申の乱とその前後 | 8,500円+税 () 冊 |
| ⑥ 律令制の諸問題 | 7,000円+税 () 冊 |
| ⑦ 住吉大社神代記の研究 | 6,000円+税 () 冊 |
| *⑧ 出雲国風土記の研究 | 8,500円+税 () 冊 |
| ⑨ 新撰姓氏録の研究 | 9,709円+税 () 冊 |
| ⑩ 古典籍と史料 | 9,709円+税 () 冊 |
| *⑪ 神社と祭祀 | 10,000円+税 () 冊 |
| ⑫ 私の古代史像 | 6,000円+税 () 冊 |

*はオンデマンド印刷で対応

国書刊行会〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427http://www.kokusho.co.jp
sales@kokusho.co.jp

書店印	〒 住所

	氏名

	Tel

刊行の言葉

(編集委員)

田中卓博士は、大正十二年（一九二三）十二月十二日、大阪市のお生れで、今年（二〇一二）満八十八歳の米寿を迎へられる。十年前の平成十三年五月、突然の大病で倒れられ、幸い奇蹟的に回復された。とはいへ、左手左足が御不自由となられたまゝ、今に至つてをられる。

ところが、それ以降も御家族などの手助けを得ながら、従来同様に旺盛な研究と執筆を続けてこられた。そのうち、月刊雑誌『諸君！』（文藝春秋）の依頼により平成十六年一月号から合計二十五回連載された学術的な評論は、同十八年十二月『祖国再建』二卷（上「建国史を解く正統史学」・下「わが道を征く六十余年」、青々企画発行）に纏められてゐる。

しかし、それ以上に学界・神社界および歴史愛好者等の間で待望されてゐるのは、平成十年七月に完結した『田中卓著作集』全十二巻（国書刊行会）に未収録の専門的な論考の出版だと思はれる。

そこで、先に編集を担当させて頂いた委員（飯田瑞穂中央大学教授のみ逝去）の四名が関係各位とも協議の上、既刊著作集の未収論文と新稿を「続篇」として編集・刊行することを計画し、幸い田中博士の御諒解を得ることができた。

その内容（全六巻）は、日本の主要な神社史、大和朝廷の建国史など、歴史学の立場から考古学の成果も参考にして解明された珠玉の論文四十数篇（四巻分）、および大東亜戦争中から師事された平泉澄博士の真姿と終戦の真相を示す論評・資料・記録など（二巻分）から成る。

この著作集続篇が、既刊の著作集と共に、田中博士の六十数年にわたる研究の全容を伝へる有用の書として広く世に行はれ、学界・教育界・神社界などで末広く活用されることを念じてやまない。

推薦の言葉

（五十音順）

京都大学名誉教授 市村真一

■ 博士の見識に傾聴して次の時代を切り開く

田中卓博士は、学生時代からの親友であり、戦友である。さる戦時中は共に海軍と陸軍の将校として戦った。戦後は学者として国史と経済に分かれたが、マルクス主義かぶれの学者や教員の偏向教育が国を危うくすることを憂い、協力して学界と教育の正常化に奮闘した。

一九九〇年のソ連崩壊を見て、日本の左翼汚染も終りと思つたが、思いもかけず伏流水であつた全共闘が政治の中核に噴出した。しかし、こんな時代は長く続かない。どうか、博士の冷静なる学問研究を学習し、その憂國の見識に傾聴し、次の時代を切り開いてもらいたい。しかも、その学問分野は、単に記紀の世界をはるかに越えて、広く考古学や地方史にまで及ぶものであつた。その学問的情熱には未だ衰えを感じさせず、常に学界に多大の刺激を与えつづけていることは、まことに慶賀に堪えないことである。

筑波大学名誉教授 井上辰雄

■ 史料の解釈・発掘から考古学・地方史にも及ぶ

田中卓先生の最大の学問的業績は、戦後の学界の大勢を占めるかと思われた「記・紀の文献批判」の名をかざして世の中に蔓延した、所謂「進歩的な」古代史像に対し、毅然と孤星に立たれ、極めて厳正な文献史料の解釈や、新史料の発掘で立ちむかわされたことにあつた。

しかも、その学問分野は、単に記紀の世界をはるかに越えて、広く考古学や地方史にまで及ぶものであつた。その学問的情熱には未だ衰えを感じさせず、常に学界に多大の刺激を与えつづけていることは、まことに慶賀に堪えないことである。

京都産業大学教授 植村和秀

■ 平泉澄博士と昭和思想史研究に必読の書

昭和史には奥行きがある。その表面の流れも重要ではあるが、流れに屹立する人間には深い思想があり、そのような人々が昭和史の奥行きを作り出している。そして平泉澄博士は、昭和期の戦前戦後を通じて、流れに屹立する重要な存在であつたにもかかわらず、その思想は今もなお、十分に解明されているとは言ひがたい。平泉博士とともに歩まれた田中卓博士の諸論考は、その解明のための、貴重な歴史的証言であるとともに、精密な学問的探求である。平泉博士の姿が深みから再現されることによつて、昭和史は立体的に理解可能となる。昭和思想史の研究のみならず、二・二六事件の研究など、昭和史研究にとつて必読の書である。

元・中京大学大学院教授
前・古事記学会代表理事

菅野雅雄

■ 記紀の実証的な珠玉の小篇も、容易に披見

■ 古代史研究の革新と古典学の再生に百万の味方

静岡大学名誉教授 原秀三郎

田中卓博士著作集の続篇が刊行されるという。古事記撰述千三百年を来る平成二十四年に控え、漸く古典学再生の機運を迎えた昨今、まさに時宜を得た好企画といえよう。

私が博士の論説に大きな感銘を受けたのは「古代天皇の秘密」（昭和五四年。著作集三所収）であった。稻荷山鉄劍銘文解釈の大枠はこれで決つたと直観したのである。ついで、「伊勢神宮の創祀と発展」（著作集四所収）や「住吉大社神代記」（著作集七所収）などを拝読するに及び、紀記の伝える大和王權の成立と古墳文化の発生が、三世紀中葉にあることを確信するに至つた。

一九七〇年代後半まで、莊園研究・改新否定説・アジア的生産様式論争・日本古代国家史研究と、いわば別世界を歩んで来た私が、田中博士の風貌と聲咳に接し、田中史学の理解を一段と深める機縁を得たのは、一九七九年（昭和五十四年）創立の木簡学会の年次大会以降である。地域に腰を据え、自治体史編纂に責任を負い、地域と王權の問題に直面して、ここを根城に津田史学とその余波によつて荒野と化した古代史研究の革新と古典学の再生とを根底から立て直すためには、田中史学の豊かな成果こそ、これまでではややもすれば敬遠されてきたが、今こそ継承すべき戦後最大級の学問的達成であり、百万の味方なのである。渴望久しい『続・田中卓著作集』の刊行を鶴首して待つ所以である。

■『住吉大社神代記』本格的研究の画期的意義

住吉大社が田中卓博士に史料所預を委嘱したのは、確か昭和三十年の始め頃で、既に『住吉大社神代記』の校訂・訓解をものにしておられ、

神代記は、その後の研究に於ける最も主要なテーマの一であり、住吉大社としてもこれを世に識らしめる契機となつた。校訂・訓解に概要と伝来の経緯を付し、疑点の解明を施し、さらに史料的価値にも言及されている。さらに八十島祭の研究は、大社に於ても秘事としてきた事柄であつただけに、初めて世に識らしめられたのである。その他、田中博士が住吉大社に史料所預として尽された功績は大きい。わたし個人としても皇學館大學と、住吉大社にご縁をいただいているのは田中博士の推挙に俟つところがあつた。ご縁の浅からぬことに感謝の意を表明しておきたい。

■ 幅広い手堅い史料研究の刊行、学界に裨益多大

同志社大学名誉教授 森 浩一

最近の考古学や古代史の研究成果の一つは、古代の日本は多彩で高い内容をもつ地域文化の集合体であったことが明らかになりつつある。

『続・田中卓著作集』の第一巻には、日本の地域の代表例といつてよい伊勢と出雲が取りあげられていて力強く感じた。さらに山背（城）のなかでの賀茂、大和のなかでの三輪、あるいは信濃の諏訪や丹波（丹後）の比治などの小地域も取りあげられているのはさすがである。

田中博士の手堅い史料への接し方には定評がある。最近では古代史研究者のなかに、肝心の史料の読み方の甘い人を見かける。そのような時流のなかで、この著作集の刊行は学界を益するところが大きいであろう。

続・田中卓著作集 全六巻収録内容

第一巻 伊勢・三輪・賀茂・出雲の神々

初出・発行年月

第一巻

- 一、実証せられてきた神代史——建国記念の日に因んで
- 二、神代に起源をもつ「神社史」の場合
- 三、「アマテラス」考——神名の「符牒化」を排す
- 四、神代史より見た天照大神の神格
- 五、蘇った神宮鎮座の古伝
- 六、画期的な雄略天皇の御代
- 七、丹波国比治の真奈井を尋ねて
- 八、外宮の御鎮座「千五百年」の証明
- 九、二所大神宮大神主、度会氏の隆替
- 十、大神神社の古代祭祀——併せて伊勢神宮の祭祀に及ぶ
- 十一、三輪山をしかも隠すか
- 十二、葛木のカモと山代のカモ
- 十三、日本古代史における出雲の立場
- 十四、稻羽の素菟——那評論争へ
- 十五、出雲荒神谷・加茂岩倉は国譲りの遺跡か——「古典伝承」の信憑性を検証する
- 十六、古代信濃の謎——諏訪大社の鎮座をめぐつて
- 十七、出雲大社の神殿の創建は果して齊明天皇朝か

第二巻 古代の住吉大社

- 一、住吉大社についての概説
- 二、神功皇后の実在をめぐつて

第二巻

- 一、「すみのえ」二八 平成七年十月
- 二、「すみのえ」二九 平成八年一月

平成十三年一月三日・三月十四日

三、武内宿禰の出自と年齢——皇紀と歴史年代との関係

四、熊襲二国への西征

五、朝鮮半島への出兵

六、住吉大社の創祀

七、住吉大社神代記

八、神宝の神世草薙劍

九、攝南地方と膽駒神南備山の神領

十、播磨国九万八千余町の神領

十一、貴重な古史料、船木等本記

十三、遣唐使と墨江之津

第三卷 考古学・上代史料の再検討

- 一、纏向遺跡の大型建築物遺跡は崇神天皇の宮跡といふ論拠
- 二、奈良県磯城郡島の山古墳の被葬者について
- 三、白国神社縁起と壇場山古墳
- 四、仁徳天皇陵や宗像の沖ノ島は「世界遺産」になじまない
- 五、古事記序の「化熊出爪」を論じて「トベ」の語義に及ぶ
- 六、祝詞「遣唐使時奉幣」について、古来の誤解を正し、難波津の位置と成立時期を確定する
- 七、「六人部連本系帳」の出現
- 八、古典校訂に関する再検討と新提案

第四卷 日本建国史と邪馬台国

- 一、神統譜——天皇に連なる神々の系譜
- 二、日本の建国史——三替統合の精華
- 三、神代史におけるスサノヲの尊

- 四、天の香具山をめぐる秘伝
- 五、神武天皇の東征と熊野高倉下
- 六、二国造の制と日本国家の成立
- 七、邪馬台国は北九州にあつた
- 八、ヒミコの鏡の行辺
- 九、狗奴國と前方後方墳説批判
- 十、津田史学批判——紀・記理解を通して

第五卷 平泉史学の神髓

- 一、平泉澄博士と丙子の乱（上・中・下）〔資料〕孔雀記
- 二、『正学大綱』解説——平泉博士の「戦後復活宣言」
- 三、大東亜戦争開戦前の平泉澄博士
- 四、平泉博士の近衛公への意見十条
- 五、吉田松陰「国体觀」の再評価——川口雅昭氏の「天皇觀」に対する批判を媒介として
- 六、明治天皇の御誓文と宸翰を仰いで——天皇親政の本質を考へる
- 七、師弟の契に学ぶ——平泉澄先生の面影を伝へる名越時正先輩の遺文

第六卷 出陣学徒の終戦史録（附、全巻総目次・要語索引）

- 一、海軍経理学校戦闘体制ノ緊急確立ニ関スル献策
- 二、終戦始末
- 三、著作目録 略歴
- 四、続・田中卓著作集 総目次・要語索引

第六卷

- 一、旧稿（昭和二十年八月十三日）
- 二、旧稿（昭和二十年三四年）
- 三、新稿
- 四、新稿

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 第三卷 | 一、「藝林」五九／一 平成二十一年四月 |
| 二、「史料」一四三 平成八年六月 | 三、「神道史研究」四八／二 平成十二年四月 |
| 四、「國民會議だより」 平成二十一年一月 | 五、「藝林」五九／二 平成二十一年十月 |
| 六、「攝羅歴史研究」二十五周年 平成十九年八月 | 七、「古事記 日本書紀論叢」 平成十一年一月 |
| 八、「神道古典研究所紀要」三 平成九年三月 | 九、「すみのえ」二三五 平成九年七月 |
| 十、「すみのえ」二三六 平成十年一月 | 十一、「すみのえ」二三八 平成十年四月 |
| 十二、「すみのえ」二三九 平成十年七月 | 十三、「すみのえ」二三四 平成九年四月 |
| 十四、「すみのえ」二三〇 平成八年四月 | 十四、「すみのえ」二三一 平成八年七月 |
| 十五、「すみのえ」二三二 平成八年十月 | 十五、「すみのえ」二三三 平成九年一月 |
| 十六、「すみのえ」二三三 平成九年一月 | 十六、「すみのえ」二三四 平成九年七月 |
| 十七、「すみのえ」二三四 平成九年七月 | 十七、「すみのえ」二三五 平成九年七月 |
| 十八、「すみのえ」二三五 平成九年七月 | 十八、「すみのえ」二三六 平成九年十月 |
| 十九、「すみのえ」二三六 平成十年一月 | 十九、「すみのえ」二三七 平成十年一月 |
| 二十、「すみのえ」二三七 平成十年七月 | 二十、「すみのえ」二三八 平成十年四月 |
| 二十一、「すみのえ」二三九 平成十年七月 | 二十二、「すみのえ」二三四 平成十年七月 |

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 第四卷 | 一、「古事記研究大系」六 平成六年八月 |
| 二、「國民會議演叢書」五十 平成十五年十二月 | 三、新稿（予定） |
| 四、「藝林」五九／一 平成二十一年四月 | 五、「藝林」五九／二 平成二十一年十月 |
| 六、「攝羅歴史研究」二十五周年 平成十九年八月 | 七、「古事記 日本書紀論叢」 平成十一年一月 |
| 七、「國民會議だより」 平成二十一年一月 | 八、「神道古典研究所紀要」三 平成九年三月 |
| 八、「藝林」五九／二 平成二十一年十月 | 九、「すみのえ」二三五 平成九年七月 |
| 九、「古代史セミナー」一四六 平成十四年九月 | 十、「すみのえ」二三六 平成十年一月 |
| 十、新稿 | 十一、「すみのえ」二三七 平成十年七月 |
| 十一、「すみのえ」二三八 平成十年四月 | 十二、「すみのえ」二三九 平成十年七月 |

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 第五卷 | 一、「日本」五四／二・三・四 平成十六年一・四月 |
| 二、「藝林」五七／一 平成二十年四月 | 三、「藝林」五八／一 平成二十一年四月 |
| 三、「藝林」五八／一 平成二十一年四月 | 四、新稿（予定） |
| 四、「藝林」五八／二 平成二十一年十月 | 五、「藝林」五八／二 平成二十一年十月 |
| 五、「藝林」五八／二 平成二十一年十月 | 六、「日本」五〇／一 平成二十一年一月 |
| 六、「日本」五〇／一 平成二十一年一月 | 七、「日本」六／五 平成二十三年五月 |
| 七、「日本」六／五 平成二十三年五月 | 八、「日本」六／五 平成二十三年五月 |

田中卓博士還暦記念出版

田中卓著作集（正篇）

全三冊（既刊）

A5判・上製・函入

※は注文によりオンデマンド出版
(函なし)で対応いたします。

著者が、学問・眞実の解明への絶えざる研鑽・精進によつて、日本古代上代史の研究を先導し、学界に独自の地歩を確立されたことは、言うを俟たない。

今回、博士の還暦を記念して、博士が執筆された数多い論稿の中から、学術論文・著述・校訂本等を集成して、日本神話・国家の成立と展開・伊勢神宮・律令制度・典籍文献など、極めて多方面に亘る博士の研究業績を、全十一巻に編纂して刊行するものである。各巻毎に解説を付す。

（第一回配本第三巻昭和六十年四月～第十二回配本第十一巻II平成十年七月）

◆推薦の言葉◆（肩書きは当時のものです）

日本史正統派の著作集刊行を祝す

國學院大學名譽教授
龍川政次郎

独自の古代史像を構成する勇姿と迫力

東京大学名誉教授
坂本太郎

日本古代上代史研究の一大金字塔

福岡女子大学名誉教授
文学博士

倉野憲司

戦後古代史学界の迷妄を正す

皇學館大学理事長
文学博士

樋口清之

敬服措かざる著者の貴重な業績

熱田神宮宮司

篠田康雄

知識層の精神的糧として座右に

金沢工業大学ライブラリーセンター館長

酒井 悌

◆賛辞◆（肩書きは当時のものです）

独創的な神話研究の成果と方法

日本の神話伝承に史実を探る

実証主義を貫く古代国家成立の研究

豪華絢爛、手堅い考証の学風

邪馬台国と稻荷山刀銘に精密な論証

伊勢の神宮に新しい角度からの照明

学説史上に確かな位置を占める諸論考

「壬申の乱」研究に清新な刺激を期待

『郡評論争』はじめ律令研究に大きな業績

律令制の研究に精緻な実証とすぐれた着想

厳密な校訂と卓抜な論考による恩恵

意義深い『住吉大社神代記』の成果

田中博士の論は、すべて明確且つ清新

尊きの星、『新撰姓氏録』研究の金字塔

東京女子大学教授
文学博士

平野邦雄

① 神話と史実

七〇〇〇円+税

② 日本国家の成立と諸氏族

九〇〇〇円+税

③ 邪馬台国と稻荷山刀銘

六〇〇〇円+税
(残部僅少)

④ 伊勢神宮の創祀と発展

八五〇〇円+税

⑤ 壬申の乱とその前後

八五〇〇円+税

⑥ 律令制の諸問題

七〇〇〇円+税

⑦ 住吉大社神代記の研究

六〇〇〇円+税

⑧ 出雲国風土記の研究

八五〇〇円+税

⑨ 新撰姓氏録の研究

九七〇九円+税

⑩ 古典籍と史料

九七〇九円+税

⑪ 神社と祭祀

一〇〇〇円+税

⑫ 私の古代史像

六〇〇〇円+税

六〇〇〇円+税

九七〇九円+税

八五〇〇円+税

六〇〇〇円+税

田中卓著作集

正篇 全十二冊収録内容

- 二、翻刻『粟鹿大神元記』
三、大化前代の枚岡
四、古代伝承の枚岡
五、意富神社について
六、『丹生祝氏本系帳』の校訂と研究
七、『和氣氏系図』の校訂
八、『海部氏系図』の校訂
九、『因幡国伊福部臣古志』の校訂と系図
十、『紀氏家譜』について
十一、『古代阿蘇氏の一考察』
十二、『丹生祝氏本系帳』について
十三、『古代傳承の枚岡』
十四、『新撰姓氏錄の撰進についての一考察』
十五、『大倭國大稅帳の検討』
十六、『古代傳承の枚岡』

神話と史実 田中卓著作集1

- 一、神代史における神話と史実との関連
二、神道思想の一根源
三、大物主・大己貴・事代主の神々
四、八岐大蛇退治伝説の史的背景
五、第一次天孫降臨とニギハヤヒの命の東征
六、神代史に現れたる海神の研究
七、『ヒ』の神と『モノ』の神
八、大神神社の創祀
九、神話と歴史教育
解説 加藤隆久

——日本国家成立史の第一章

——天神・地祇の対立と調和

——大神・地祇の対立と調和

——大神神社の創祀

——大神・地祇の対立と調和

日本國家の成立と諸氏族 田中卓著作集2

- 一、日本国家の成立
二、日本古代の復権
三、神武天皇の御東征と大倭国造
四、古代天皇の系譜と年代
解説 渡邊寛
——王朝交代論批判
五、藤間生大氏著『日本武尊』を読む
六、日本古代史の復権
——特に井上光貞氏の学説を評す
七、不思議な応神天皇活潑論
八、五世紀の大和王権をめぐつて
九、直木孝次郎氏の新説『画頭政權』論批判
十、古代氏族の系譜
——ミワ支族の移住と隆替

邪馬台国と稻荷山刀銘 田中卓著作集3

- 一、邪馬台国と上代特殊仮名遣
二、邪馬台国新論
第一章 邪馬台国論争のすすめ／第二章 卯弥呼の国へのルートを追へば
第三章 画期的な放射線コース説の出現／第四章 修正・放射線説を提倡する／第五章 不弥国は金印出土の志賀島か／第六章 投馬国を五島列島に探る／第七章 水行二十日で投馬国へ／第八章 里程の検討と新航路の発見／第九章 邪馬台国は筑後国山門郡に／第十章 邪馬台国とヤマト朝廷との関係
三、稻荷山古墳出土の刀銘について
第一章 世紀の大發見『稻荷山刀銘』／第二章 戰後古代史学界の風潮／第三章 刀銘一一五字の解説／第四章 ヲワケノオミの実像／第五章 ワカタケル大王の世界／第六章 八代系譜の信憑性／第七章 井上光貞学説の動搖／第八章 古代天皇の実在／第九章 太朝臣安萬侶の墓誌銘
解説 川北靖之

伊勢神宮の創祀と發展 田中卓著作集4

- 一、神宮の創祀と發展
第一章 神宮の創祀／第二章 神宮職制の整備／第三章 伊勢神郡の成立

壬申の乱とその前後 田中卓著作集5

一、日本紀の天武天皇元年紀『改訂本』

二、疑はれたる天武天皇前紀
——倭姫皇后即位論の批判

三、壬申の乱の功臣
——聖德太子父子と蘇我氏

四、壬申の乱と大伴氏
——中天皇をめぐる諸問題

五、壬申の乱の開始
——直木孝次郎氏の所論についての疑

六、壬申の乱
——近江国坂田郡と美濃国不破郡の氏族と神社

七、外宮御鎮座の年代と意義
——不破の闇をめぐる古代氏族の動向

八、飛鳥時代の政治状勢
——聖德太子父子と蘇我氏

- 一、壬申の乱の開始
——直木孝次郎氏の所論についての疑
二、壬申の乱
——近江国坂田郡と美濃国不破郡の氏族と神社
三、外宮御鎮座の年代と意義
——不破の闇をめぐる古代氏族の動向
四、飛鳥時代の政治状勢
——聖德太子父子と蘇我氏
五、壬申の乱と大伴氏
——中天皇をめぐる諸問題
六、壬申の乱
——近江国坂田郡と美濃国不破郡の氏族と神社
七、外宮御鎮座の年代と意義
——不破の闇をめぐる古代氏族の動向
八、飛鳥時代の政治状勢
——聖德太子父子と蘇我氏
九、壬申の乱の開始
——直木孝次郎氏の所論についての疑
十、壬申の乱
——近江国坂田郡と美濃国不破郡の氏族と神社
十一、中天皇をめぐる諸問題
——中天皇と有馬皇子
十二、誤られたる万葉歌人
——先太上天皇考
十三、紀皇女をめぐる論争について
——併せて高安王の系譜を論ず
十四、奈良時代におけるミカド思想の展開
——「をのこやも」の嘆きの背景
十五、所謂「上階官人歴名」について
——大日本古文書の再検討
十六、難波の堀江
——瀧川博士の新羅江論に連れて
十七、唐風官名よりみたる仲麻呂政権の実体
十八、押勝の首を挙げた軍士

律令制の諸問題 田中卓著作集6

一、大化改新詔の信憑性をめぐる論争

二、郡司制の成立
——佐伯宿禰淨萬侶の場合

三、「朝臣」表記は大宝の修字か
——阿曾美・旦臣・朝臣について

四、「旦臣」その後
——大日本古文書の「阿部」は誤読

五、新史料「評」を含む『古屋家家譜』の出現
——清水潔
六、年号の成立
——初期年号の信憑性について

七、天智天皇と近江令
——天智天皇の不改常典

八、奈良時代以前における「新嘗」と「大嘗」について

新撰姓氏録の研究

田中卓著作集9

- 一、新撰姓氏録撰述の次第
- 二、新撰姓氏録の基礎研究

——原本と抄本に関する諸問題

- 三、日本紀弘仁講書と新撰姓氏録の撰述
- 四、平安時代初期の歴史精神についての一考察

——神功皇后紀の成立について

- 五、新撰姓氏録における天神・天孫・地祇を論じて天穗日命に及ぶ
- 六、新撰姓氏録考証の解題

七、和安部の是非

- 八、姓氏録、延良本の出現と菊亭本の意義
- 九、新校・新撰姓氏録
- 十、新撰姓氏録逸文拾遺

解説 清水潔

住吉大社神代記の研究

田中卓著作集7

- 一、住吉大社神代記(写真版)
- 二、校訂・住吉大社神代記
- 三、訓解・住吉大社神代記
- 四、住吉大社神代記の研究
- 五、住吉大社神代記の研究追考

——村尾次郎学士の高評に答へて

- 六、『住吉大社神代記の研究』に対する批評に就いて
- 七、参考・住吉大社神代記

解説 真弓常忠

出雲国風土記の研究

田中卓著作集8

- 一、出雲風土記弁護
- 二、校訂・出雲国風土記
- 三、和訓・出雲国風土記
- 四、出雲国風土記諸本の研究
- 五、出雲国風土記の成立
- 六、原撰出雲国風土記の成立年代
- 七、細川家本出雲国風土記の出現
- 八、出雲国風土記諸本解題
- 九、出雲国風土記の真偽論争を顧みて
- 十、『国造』の発音について

解説 吉井良隆

古典籍と史料

田中卓著作集10

- 一、神功皇后をめぐる紀・記の所伝
- 二、神功皇后を中心とした日本紀・古事記の編年対照史料
- 三、顯宗天皇の即位をめぐる所伝の形成
- 四、古事記における國名とその表記
- 五、懷風藻の成立
- 六、九州風土記の成立
- 七、肥前風土記の成立
- 八、弘仁私記の研究
- 九、日本紀の性格と弘仁講書
- 十、四天王寺御手印縁起の成立を論じて本邦社会事業施設の創始に及ぶ

——九州風土記(甲類) 摘述の一考察

——主として序分をめぐる諸問題

——古事記・播磨國風土記・日本紀の関係

——古事記偽書説への反証

——聖德太子と四天王寺四箇院

- 十一、神皇正統記と愚管抄
- 上古史に対する理解について
- 十二、最古の「土器文字」の読みについて
- 十三、紀・記の原資料探索への一齣
- 十四、「八十萬神」(紀)から「八百萬神」(記)へ去、「御」と「御」の字形について
- 十五、「博士」の読みについて
- 十六、東野氏説「フビト」は無理であらう
- 十七、「郡司符」(新潟県・八幡林遺跡)木簡と告朔儀
- 十八、「古史成立」と「古史傳」
- 十九、書評・平泉澄博士編著『泰澄和尚傳記』
- 二十、書評・西田長博士著『日本古典の史的研究』
- 二十一、書評・倉野憲司博士著『古事記』
- 二十二、書評・秋本吉郎氏校注『出雲国風土記』
- 二十三、書評・所功氏著『三好清行』を読んで『革命勘文』に及ぶ
- 二十四、播磨國正税帳の成立と意義
- 二十五、新史料『延暦八年、勅旨所牒』と『宝龜三年太政官符』
- 二十六、安澄の卒傳
- 二十七、日本後紀の逸文
- 二十八、西琳寺縁起所載の造像銘記と彌勒寺(勝尾寺)流記の欠文
- 二十九、元興寺伽藍縁起并流記資財帳の校訂と和訓
- 三十、熱田神宮踏歌詩の解説
- 三十一、古事記裏書の校訂と解説
- 三十二、吉田家本延喜式・金勝院本扶桑略記の解題
- 三十三、神宮文庫所蔵古写本延曆儀式帳の解説
- 三十四、伊勢天照皇太神宮彌宜譜図帳・皇太神宮延喜以後彌宜補任次第の解説
- 三十五、校訂・伊勢天照皇太神宮彌宜譜図帳
- 三十六、翻刻・皇太神宮延喜以後彌宜補任次第
- 三十七、荒木田氏古系図の出現
- 三十八、元徳注進度会系図の解説
- 三十九、元徳注・元徳注進度会系図
- 四十、神道五部書の解題

神社と祭祀

田中卓著作集11-I

- 一、天下無双の祭儀——神宮第六十回御遷宮に奉仕して
- 二、伊勢神宮をめぐる古伝の復活

- 一、私の古代史像——付総目次——田中卓著作集11-II
- 二、皇国史觀について
- 三、文部省編『国史概説』と平泉史学
- 四、私の古代史像
- 五、著者の略歴と著述(歴史関係)目録
- 六、著作集総目次

続・田中卓著作集 全六巻

著者略歴
(たなか たかし)

大正十二年十二月十二日生れ(大阪市)

昭和二十年九月、東京帝國大学文学部国史学科卒業

昭和三十五年四月、文学博士(旧制)

府立大阪社会事業短期大学教授を経て、昭和三十七年四

月から皇學館大学教授、平成四年四月から同大学大学

院教授、同年六月から同大学名誉教授、同二十三年四

七月から同大学学事顧問

昭和四十八年十二月、皇學館大学文学部長

昭和五十五年四月から同六十三年三月まで皇學館大学長

著書・『住吉大社神代記』『出雲國風土記の研究』『神宮

の創祀と発展』『住吉大社史』(上・中巻)『日本古典

の研究』『日本国家成立の研究』

『海に書かれた邪馬台国』『古代天皇の秘密』

『概説日本史』(改題『教養日本史』)『愛國心の目覚め』

『祖国を見直そう』『祖国は呼びかける』『歴史と伝統』

『皇國史觀の対決』『伊勢神宮と式年遷宮』

『伊勢・三輪・賀茂・出雲の神々』(編著)『田中卓著作集』十二冊(国書刊行会)

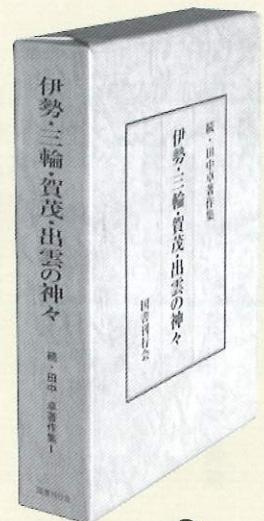
『田中卓評論集』四冊(青青企画)

編著・『維新の歌—幕末尊王志士の絶唱—』『白山神社史』

『眞清田神社史』ほか『新撰姓氏録』『神道五部書』『風土記』(いずれも

校訂・『新撰姓氏録』『神道五部書』『風土記』(いずれも

神道大系)



- A5判・上製函入(正篇と同型)
予価八八〇〇円+税
 ① 平成二十三年十一月十二日
 ② 平成二十四年三月十二日
 ③ 平成二十四年六月十一日
 ④ 平成二十四年九月十一日
 ⑤ 平成二十四年十二月十二日
 ⑥ 平成二十五年三月十二日

お客様各位

- A 書店にご注文の場合、
この1枚を切り取ってお渡し願います。
- B 弊社に直接ご注文の場合、
この裏面をFAX願います(03-5970-7427)。
代金引換便にてお送り致します。

- 第一卷 伊勢・三輪・賀茂・出雲の神々
定価八八〇〇円+税
- 第二卷 古代の住吉大社
- 第三卷 考古学・上代史料の再検討
- 第四卷 日本建国史と邪馬台国
- 第五卷 平泉史学の神髓
- 第六卷 出陣学徒の終戦史録 附、全巻総目次、要語索引

著書・『住吉大社神代記』『出雲國風土記の研究』『神宮

の創祀と発展』『住吉大社史』(上・中巻)『日本古典

の研究』『日本国家成立の研究』

『海に書かれた邪馬台国』『古代天皇の秘密』

『概説日本史』(改題『教養日本史』)『愛國心の目覚め』

『祖国を見直そう』『祖国は呼びかける』『歴史と伝統』

『皇國史觀の対決』『伊勢神宮と式年遷宮』

『伊勢・三輪・賀茂・出雲の神々』(編著)『田中卓著作集』十二冊(国書刊行会)

『田中卓評論集』四冊(青青企画)

編著・『維新の歌—幕末尊王志士の絶唱—』『白山神社史』

『眞清田神社史』ほか『新撰姓氏録』『神道五部書』『風土記』(いずれも

校訂・『新撰姓氏録』『神道五部書』『風土記』(いずれも

神道大系)